

神戸YMCA学院専門学校
2019年度 自己点検・評価表

1. 学校の教育目標

公益財団法人 神戸 YMCA はキリスト教精神に基づき、兵庫県の青少年等の心身と人格の向上を図り、奉仕の精神をやしなひ、もって民主社会の発展に寄与するとともに、世界の平和に貢献することを目的としています。

そして、本校は、時代が要請する専門性に対して豊かな柔軟性をもって集中的な知識と技能の専門教育を提供すると共に、人間として確固たる信念を持ち、自らの人生を切り拓いていくことのできる青年を育成することをめざします。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

<ホテル学科>

非常勤講師やカウンセラーの協力を仰ぎながら、丁寧かつ効果的なクラス運営を目指していく。また、職員・講師の指導力向上に向けて、OJTの強化や研修会勉強会の参加機会を確保していく。

<日本語学科>

新しい在留資格「特定技能」が設けられ、外国人の受入れ環境が大きく変わっていく中で、日本語教育機関として、どのような対象・内容の教育活動を展開していくのか、その調査と今後の方針を検討していく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	3	2	1
・各学科における職業教育の特色が明確にされているか	4	3	2	1
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想をいっているか	4	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1

① 今年度の評価

・学校としての基本事項であるため、両学科ともアドミッションポリシーの再確認を行い、学校が目指すべき姿とその指導内容を教職員間で共有し、学校づくりの基本としてとらえてきた。
・さらに在籍生や入学希望者、保護者等やその関係者等へも、学校案内書、学生便覧等へ記載し、オリエンテーションやホームルールを通して周知してきた。

② 次年度にむけての改善策

・学校のアドミッションポリシーを共有しながら、今後の少子化、入試改革、就労環境等の変化に合わせて、学校としての中期ビジョンを策定する。
・学校としての情報公開の推進を行い、ウェブサイトを通して、アドミッションポリシーの周知徹底を図っていく。

(2) 学校運営

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・設置団体は学校運営者として適切な団体であるか	4	3	2	1
・目標達成にむけた運営方針や中長期計画・単年度の事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・事業計画にしたがって教育活動が実施されているか	4	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	4	3	2	1

・運営組織や意思決定機能は、有効に機能しているか	4	3	2	1
・基本計画に従った予算執行が適切になされているか	4	3	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
・校長、主任教員及び教員は、専修学校及び日本語教育機関で求められる要件を満たしているか。	4	3	2	1
・留学生のための事務組織が整備されており、留学生の申請取次者が配置されているか。	4	3	2	1
・授業料等の内訳及び納付時期が明示されている。また、学費返金規定が公開されているか。	4	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 今年度の評価

- ・2020年度の学則変更の届けを行った。
- ・高等教育の新修学支援制度の対象校として認められた。（給付型奨学金の受給対象校と認定）
- ・法務省告知基準の改正にともない、報告資料を整備した。（日本語学科）
- ・教員変更にともない、法務省への届出を行った。（日本語学科）
- ・職員体制の変更に対して、役割変更や業務の整理を行った。

② 次年度にむけての改善策

- ・職業実践専門課程認定に向けて、準備を進める。（ホテル学科）
- ・職員、教員の交代による役割の再編を行い、より安定した効率的な学校運営を目指す。
- ・ITの活用を推進し、効率的な学校運営を目指す

(3) 教育活動

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
	ホテル)	4	3	2	1
・教育目標に沿って修業年限に対応した到達目標が明確にされているか	日本語)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・到達目標に合わせて教育課程・カリキュラムが体系的に編成されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・関連企業や業界団体との連携により、教育内容やプログラムの作成や見直し等が行われているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・関連企業や業界団体との連携により、実践的な教育（実習等）が体系的に位置づけられているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・教育目標に合致した教材が選定されている。また、補助教材等は著作権法に留意されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・外部関係者からの評価を取り入れているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学習内容、学事暦、学習及び学校生活における留意点、入管法上の課題等を、学生達に伝えているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・資格取得に関する指導体制がとられているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる能力経験を備えた教育を確保しているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・業界団体との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・指導者の研修や指導力育成のための取り組みが行われているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

①・ 今年度の評価

- ・ 日常の教育活動は、教職員の退職等があったが、ほぼ予定通り運営することができた。
- ・ ホテル学科では、ブライダルコースの強化を目指して、現場経験のある教員を学生指導にも関わる体制をとった。さらに、学生の適性と要望をもとに、実習先の選定等を行ない、ほぼ順調な運営ができた。
- ・ 日本語学科では、新しい教員の採用と育成指導を行い、全体の指導内容の質的な向上がはかられた。

② 次年度にむけての改善策

- ・ ホテル学科では、精神的に未成熟な学生が増加していることから、新入生のカウンセリングを定例化してきた。今後はサポートシステムをより拡大していき、学校不適應者への対応を具体化していく準備をすすめる。
- ・ 昨年に続き、ブライダルコースの支援体制強化を継続する。さらに、ツーリズムコースの強化（実習先の開拓、指導者の発掘等）を目指す
- ・ 日本語学科では、講師体制の世代交代にむけて、新しい専任講師の採用と研修を進めていく。

(4) 学修成果

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、				
・就職率の向上にむけての取り組みがなされているか。	ホテル)	4	3	2	1
・進路指導の向上と進学率のアップに向けての取り組みがなされているか。	日本語)	4	3	2	1
・資格取得率の向上にむけての取り組みがなされているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・退学者率の軽減にむけての取り組みがなされているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業後の社会的な活躍及び評価を把握しているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

①・ 今年度の評価

- ・ ホテル学科：就職状況。 27名中23就職、（就職以外の進路：帰国、進学、別分野での求職活動）
- ・ 日本語学科：JLPT=N2 45名合格（73名受験）、N1 17名合格（37名受験）、
- ・ 日本語学科：大学院進学者 6名、大学進学者 20名、専門学校進学者 32名、就職7名、帰国者他 19名、
- ・ 日本語学科：ファイルメーカー導入に伴い、学籍管理システムの安定化がなされた。

② 次年度にむけての改善策

- ・ ホテル学科：学籍管理システムの改修に伴い、成績結果報告が遅れた。次年度にはスムーズな運用を目指す。HRS等の資格試験への受験人数が少ない。学習目標として受験者数の増加を目指す
- ・ 日：学籍管理システムのよりスムーズな運用を目指す

(5) 学生支援

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・就職（進路）指導に関する支援体制は整備されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学校生活について相談する体制は整備されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・奨学金等の経済的な支援体制は整備されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。		4	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・住宅やアルバイト、在留資格等の学生の生活環境への支援は行われているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・保護者と適切に連携をしているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

① 今年度の評価

- ・高等教育の新修学支援制度の開始に伴い、在学予約を行なった。また、新入学生への案内を開始した。
- ・コロナウイルス感染予防にむけて、学生への啓発・学校行事の変更等を行った。

② 次年度にむけての改善策

- ・引き続き経済的な支援が必要な学生にむけて、情報提供を続ける。
- ・学校不適応の学生に対して、必要な支援を検討していく。（留学生へのカウンセリング実施等）
- ・外国人受け入れ拡大が進む中、新たな在留資格等の情報収集とガイダンスを実施する。

(6) 教育環境

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・教育機関として適切な位置環境にあるか、兵庫県及び法務省の基準を満たしているか。	4	3	2	1	
・施設・設備は、教育上の必要性に十分に対応できるよう整備されているか	4	3	2	1	
・学校外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	ホテル)	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1	

① 今年度の評価

- ・定例の避難訓練を行った。
- ・職員の異動に伴い、会館管理体制が変更されたため、あらためて情報の共有をはかった。

② 次年度にむけての改善策

- ・新会館4年目に向けて、学校設備備品の再点検をすすめ、教育環境の維持を目指す
- ・引き続き、清掃とメンテナンスを継続し、現在の教育環境の維持・向上を目指す

(7) 学生募集活動

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・学生募集活動は、受入方針を定め、募集計画を策定し、計画に従って適正に行われているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学生募集活動において、学校情報提供や入学相談を行っているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

・学生募集活動において、教育内容や教育成果は正確につたえられているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学費等の学生納付金は適切なものとなっているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・海外の募集代理人（AG）の行う募集活動が適切に行われていることを把握しているか。	日本語)	4	3	2	1
・入学選考基準及び方法が明確化されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

① 今年度の評価

- ・ホテル：説明会の内容を点検・修正しながら、学校の指導方針・求める学生像を伝えてきた。入学ガイドを改訂し、それに合わせて募集ツールの刷新をすすめている。
- ・日本語：募集担当者の変更に伴い、海外募集の引継ぎを行ってきた。あらたな募集対象国を定め、現地 AG の発掘を行なった。

② 次年度にむけての改善策

- ・ホテル：Line の導入をはかり、資料請求者へのコンタクトの徹底をめざす。
- ・日本語：新しい在留資格の動向を見ながら、海外窓口の充実を目指していく。

(8) 財務

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1	
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1	
・財務について会計監査が適切に行われているか	4	3	2	1	
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1	

① 今年度の評価

- ・年度予算に沿った運営が進められた結果、一定の収支差を確保し、公益財団全体へ貢献できた。

② 次年度にむけての改善策

- ・広報予算（パンフ制作費等）は、予算額も大きいため、より綿密な予算計画が必要。
- ・そのためには、複数年度にまたがる予算計画をたてる必要があるだろう。
- ・担当者の変更にともない、広報のレベルを維持することが重要。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	兵庫県)	4	3	2	1
	法務省)	4	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1	
・自己評価の実施と問題点改善を行っているか	4	3	2	1	
・関係省庁、法務省入管局への届出・報告を行っているか	4	3	2	1	

① 今年度の評価

- ・兵庫県私学課へ、学則変更届（学費改定）を提出した。
- ・法務省へ、定期報告と教員変更届けを提出した。

② 次年度にむけての改善策

- ・入学定員の見直しを検討する。（日本語学科）

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか。	4	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 今年度の評価

・L&S と合同で、夏祭り・秋祭りを共済した。地域活動等に学生がボランティアとして参加（募金活動・インフィオラータ・バザー・保育園の国際デー、他）した。

② 次年度にむけての改善策

・今年度と同様、諸活動への案内を誘導する

(11) 留学生の入国在留 支援について

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・留学生の受入れについて、戦略をもって行っているか (両：もっている)	4	3	2	1
・留学生の受入れ、在籍管理等において正確な情報収集、適切な手続き等がとられているか (両：行っている)	4	3	2	1

① 今年度の評価

・新たな募集窓口として、タイ・マレーシアの関係機関を訪問した。
・卒業生からの紹介制度を導入し、拡散を行った。

② 次年度にむけての改善策

・紹介制度の拡大により OB からの紹介をめざす。また、リスティング広告の導入を行い、他ビザ生募集に向けて、リスティング広告を開始、運用する。
・募集環境の変化にとまじり、主要三カ国（中国・台湾・韓国）の募集計画を再構築する。

4. 学校評価の具体的な目標、計画の総合的な評価結果

本校の基本方針として、運営母体である公益財団法人「神戸YMCA」が求める目標に向けて、専門学校事業を通して、その実現を目指しています。そして、専門学校教育事業としての到達目標達成に向けて、単年度毎の事業・予算計画を設定し、それにしたがって事業運営を行っています。

2018 年度の自己点検評価を基準に、教育方針、組織、運営全般に関わる諸事項、校舎設備の項目について、今年度具体的に実施してきたことを再確認しました。その中で、2020 年度に継続して取り組むべきこと、あらたな課題としてとりあげていくもの、をそれぞれ明確にしたうえで、2020 年度にむけての改善策を策定していきました。

新校舎へ移り3年が経過する中で、必要な備品の整備や会館利用上の課題やルールが整備されてきました。今後は使いやすい環境を維持しながら、設備や備品のメンテナンスを徹底し、学生に設備備品の維持管理への協力をよびかけていくことを目指します。

学科別の目標として、以下のポイントを今後の課題として取り組んでいきます。

ホテル学科：ホテルスタッフ養成機関としての役割を維持しつつ、多様化する社会環境に合わせて、観光都市神戸の中でブライダル業界、ツーリズム業界との関係を強化し、就職先の拡大を目指していくこと。

日本語学科：日本語検定等の対策授業やビジネス系の選択科目の導入、就職支援、非漢字圏からの学生への指導方法改善等に取り組んできました。当初の目的は達成されつつありますが、留学生をとりまく環境の変化により、日本語教育への期待が変化している中で、日本語教育の方向性を確認しつつ学校づくりに反映させていきます。

広報面では、学校のポジショニングをとおして、学校の特色を正しく発信していくこと、を目標としてきましたが、作業完了までには至らず、次年度以降に継続していく予定です。

2020 年度は、高等教育や外国人留学生を取り巻く環境が変化していく中で、新たな環境に合わせた教育内容や学生支援を整備していくこと、を目指して取り組んでいきます。